



いもつとに
愛のムチ



うららかな
麗と遥には
チョコレートを...

そういえば愛莉が
おせんべい食べたって
言ってたっけ

相変わらず
渋好みだな



うん
いい色の
トマトだ

今日はトマトとサーモンの
冷製パスタを作ろう！
オリーブオイルあったよな……

望月 溪吾
(望月家 長男)

件名：ごめんね
本文：
ごめんね あたし
今日……

カレシ以外のヒトと
エッチしちゃった



……僕は……

遅くなるって連絡か？
パスタは微妙かなあ

お愛莉か

ホントはだめだって
わかってた

けど、強く抱きしめられて
拒めなかったの

——なんて
お兄ちゃんに
告白しても困るよね

でも、ひとりで
抱えてるのがつらくて

お兄ちゃんに聞いて
ほしいの。



こないだ試験勉強で
みんなで図書館行くと
言ってたでしょ

あの日の



わからないところあるから
おしえて、って言われて





びっくりしたけど
キライなヒトじゃないし

傷つけたくなくて
何も言えずにいたら

強引にキスしてきたの。



そしたら、なぜか
図書館の裏手に
連れて行かれて

あたしのこと
好きだって

アイツと別れて
オレのモノになれって
言われたの



はっ
だってカレシより
全然キスが上手だったの！



んっ

んっ……

そしたら、あたし
とろけちゃって。



キスで全身の力が抜けちゃって。
そしたら、もうダメ。

あたしは強く抱きしめられて
もう、身を任せるしかなかった。

あのヒトの手が
あたしのおしりを
なでたり、つかんだり、



愛莉……！



だってあたし
すっごく
濡れていたんだもの！



あたしのいちばん大事な
ところに触れた時

「ああ、もうこのヒトに
エッチされちゃうんだ」
って思ったの。



そのうち下着の中に入って
直にさわってきても
あたし何も出来なかった。

その手は
もっと奥へと伸びてきて



お……おま……



あたし
「これ以上はダメ」
って言うてみた。



もちろんあのヒトも
すぐにそのことに気づいた。

あたしは、愛撫もそこそこに
足をひろげさせられ

あのヒトのカたいモノを
大事なところにおしあてられて。



あのヒトも「おまえのナカ
 すごく気持ちいいよ」って言いながら
 びゅるびゅると白い液体を

ドクドク
 ドクドク
 ドクドク



そういえば予兆はあった
 以前は二つに結っていた髪を
 おろすようになったこと

あれ
 似合ってた
 のにな…

長い丈のスカートが
 お気に入りであったはずなのに
 最近短くなる一方だったこと



はあはあ……



……



愛莉……

我が妹はいつからそんな
 ビッチ娘になってしまったんだ
 お兄ちゃんは悲しいよ……



だああああ
 ああああ

もうこれ以上読めん！
 読みたくない！
 読みたくないぞ
 愛莉——ッ！



はははは
おっ今日の夕飯
なになに?
アニキ特製
オリジナルパスタ?

コラ 麗
家族が帰って来たら
まずは
おかえりなさいだろ?!



ただいま……



ただお年頃になつてきた
だけと思つてたのに

こんな

……
こんなことに
……ツ



はいはい
おかえり
アニキ
おかえり
なさい
お兄さま

やれやれ
双子なのに
両極端だな
……



なあ麗
お前も女の子なら
アニキだのアネキだの
オヤジだのは
どうかと思うぞ
そんなんじや
亡くなった
母さんが悲しむ



うるさいなあ
アニキは
うらら



もう部屋で
宿題するし!
じゃあね
オニイチャン!

うららったら……
双子だつてことが
時々恥ずかしく
なるわ……

ままあ
仲良く
やつてくれよ

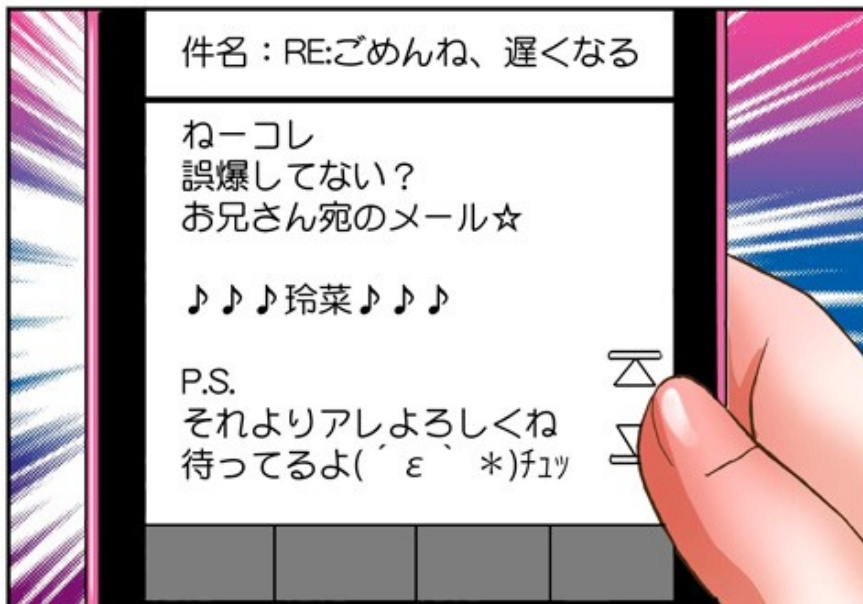
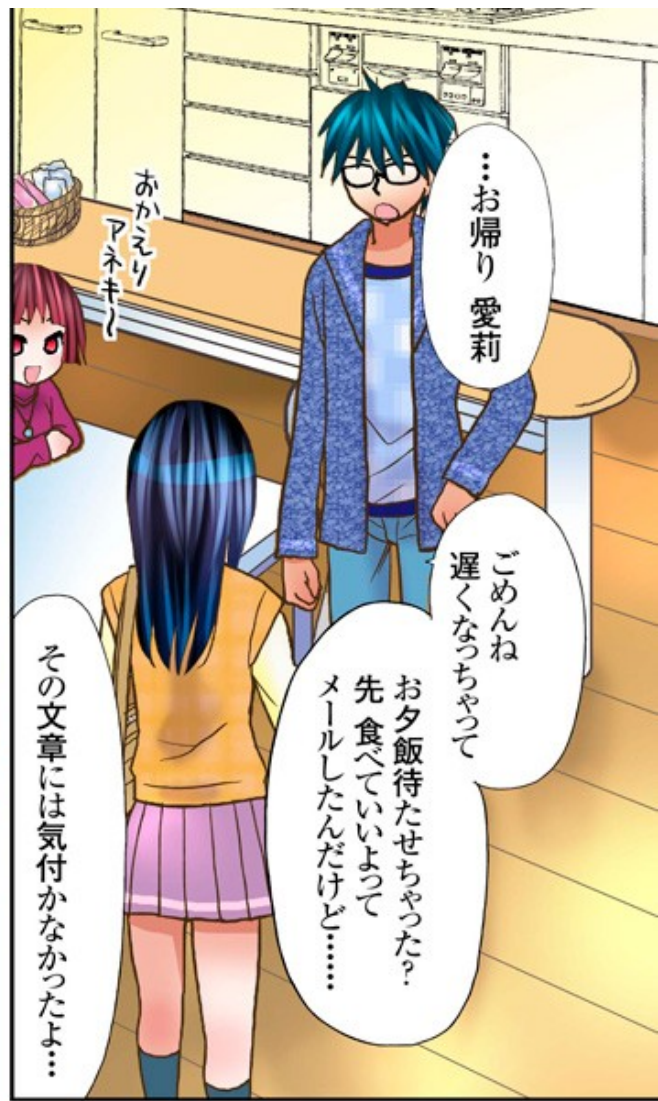


あつあつ
ごめん!
お仕置きは勘弁!
お仕置き部屋に
連れて行くのだけは
やめてよね!



ぎい





それより愛莉
その件で話がある

カバンを置いたら
すぐに
母の部屋へ来るんだ
待ってるから

…お帰り 愛莉

ごめんね
遅くなっちゃって

お夕飯待たせちゃった？
先食べていいよって
メールしたんだけど……

その文章には気付かなかったよ……

え……えっと……
…わからない……

お姉さま
何か
したんです？

マジ!?
アネキが
お仕置き部屋に
呼ばれた……!?

件名：RE:ごめんね、遅くなる

ねーコレ
誤爆してない？
お兄さん宛のメール☆

♪♪♪ 玲菜 ♪♪♪

P.S.
それよりアしよろしくね
待ってるよ(´ε`*)チツ

えっ!



親友の玲菜に見てもらおうつもりだったの……

あたし間違えてお兄ちゃんに……



携帯小説？

えアネキ小説なんて書いてたの！すごーい



あ

あ……あたし……うそっ……

お兄ちゃんに送っちゃったんだ……あたしの携帯小説……！



わあ！私も読んでみたいなお姉さまの小説！

でもさアネキえらく怒ってたよね小説誤爆されたくらいでそんな怒ることないじゃん

ねえ



ああの……お兄ちゃん……

入りなさい愛莉



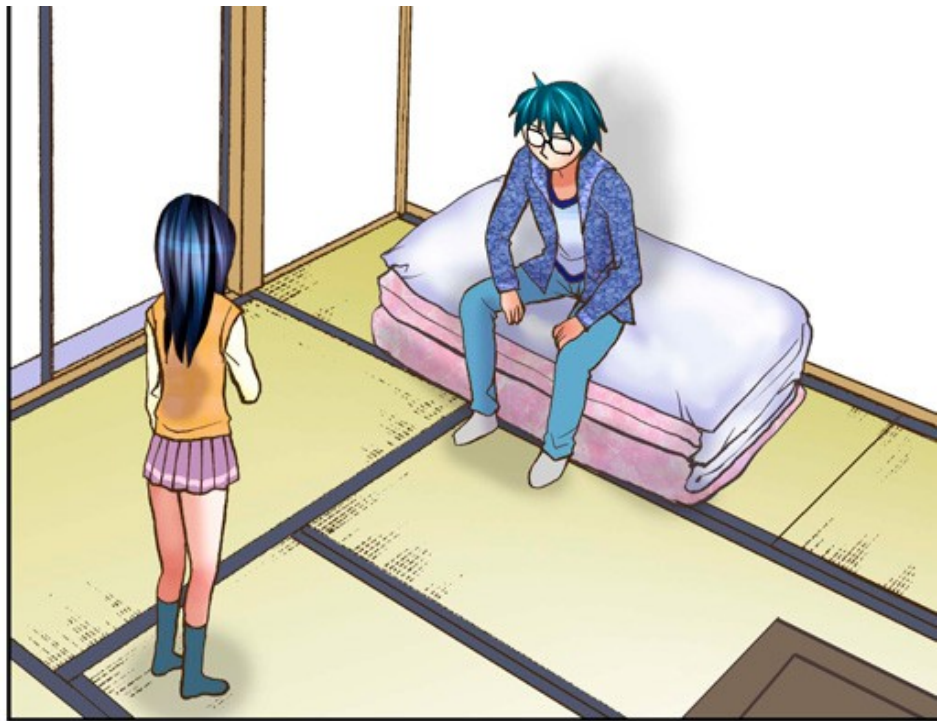
お姉さま……心当たりあるような顔よっぽどその小説が問題だったのかしら



小説が問題……



お仕置き部屋に行つて来ます……



妹達の中でも
特に愛莉は
僕や母さんに似て
日々真面目に暮らしている
ものだと信じていたんだ



なのに
こんな……

こんな
ふしだらな……

ごめんなさい
お兄ちゃん……



あの
ごめんなさい
あたし……

僕はね……
すごく悲しいよ
愛莉



もしかして
小さい頃みたいに
おしりを……？



えっ……



僕は君に
お仕置きを
施さなければ
ならないよ
愛莉

……どうすればいいか
わかるよね？



スミ...



.....わ
わかりました.....



そんな...あたし
もうこんな
大きいのに

...恥ずかしい.....

もつと恥ずかしいことを
平気でしていたのに?

大きくなったからって
いけないことをしたら
許さないよ僕は



ぎゅっ

これは
お兄ちゃん
からの
愛のムチだよ
愛莉



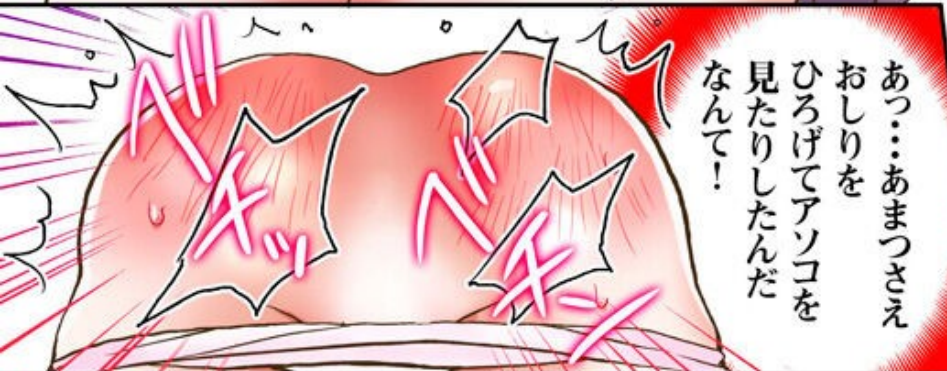
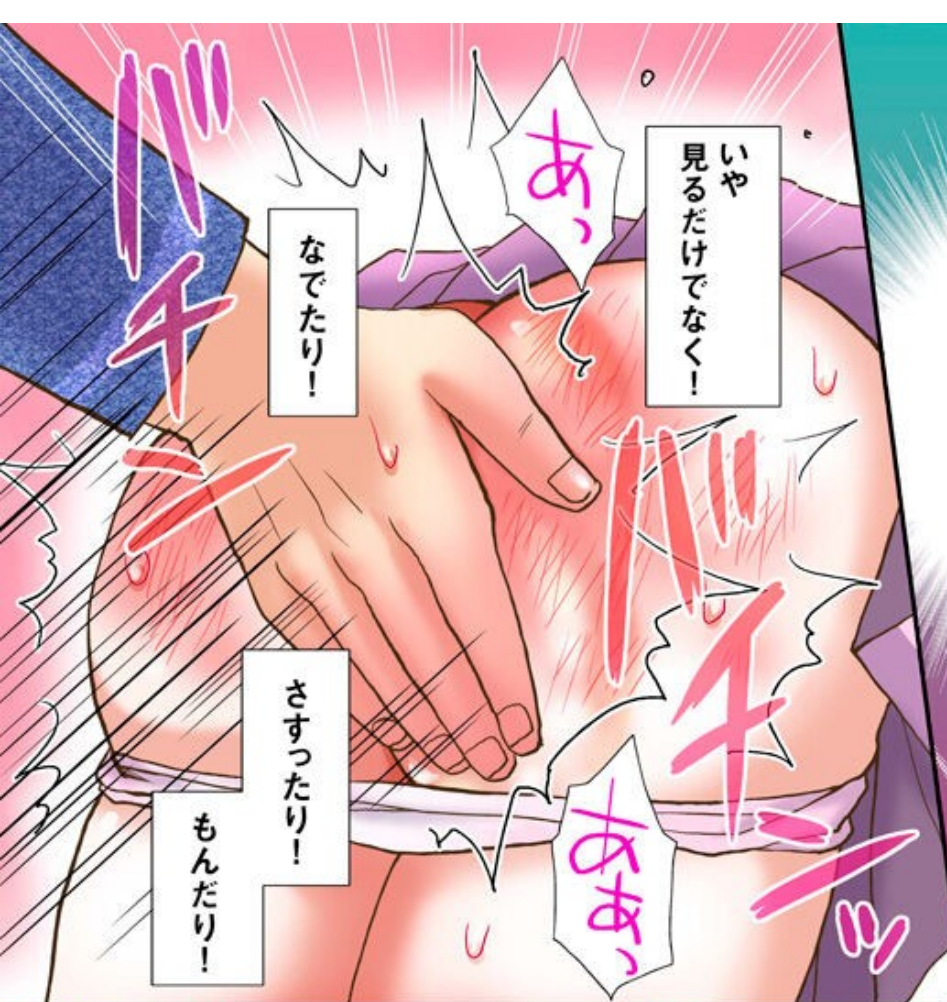
こんなんじゃ
伝わらないね



はんっ
はんっ



はんっ





なんか雰囲気
おかしくない?
……ねえ

あつ……

なにに?
お兄ちゃん……



いたっ……

ぎゅっ

ぴりぴり
するから
やめて……



ひゃああんっ

アッアッ



……濡れてるな
おまえ



ちよつちよ……

ちゅっ



どんだけ
ビッチなんだ
おまえは

……あつ
やああつ
いじくら
ないでえつ

このオレにあんな淫狼な話を
聞かせてきたんだ
こうなることは予想の上
だったんじゃないのか?

んー?





泣いたって
オレが
満足するまで
やめねーぞ



兄であるオレ様の
チ○ポはどうよ
ピッチ娘!

ほらほらあ!

そんなんっ
わかんないよ...
うわあん



何言ってるのっ...?
...それって小説の...



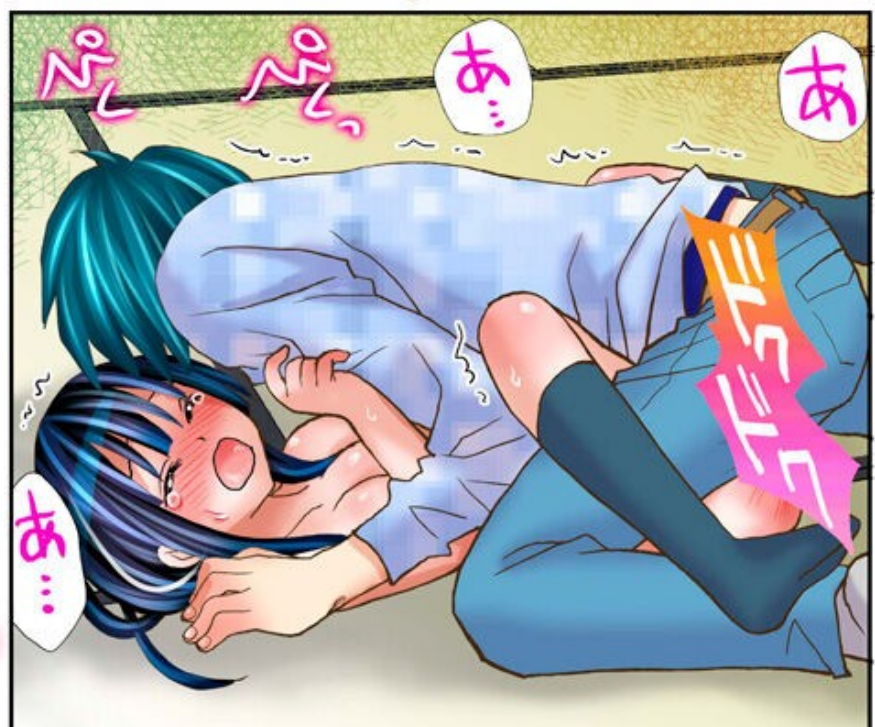
そうだ
腰と呼吸を
オレに合わせるよ

はま
はま

出来るんだろ?
誰かさんに
してたようにさあっ



...あっ



チャプター-6「ごめんね」おわり。
 こんな感じで書いてみました。
 結構アレンジしちゃったけど
 どうか？
 玲菜の感想待ってるね☆

P.S.
 次の体験談も楽しみにしてる
 けど無茶しちゃだめだよ
 (´▽｀*)ε(´)ﾌｯ

あ

なにこれ……？

え何言ってる……
 ……だって
 あのメール……

お兄ちゃん……
 ……あたし
 わかった

最後まで
 読んでないでしょ
 あのメール

そりゃあたし……
 ……初めて
 だったから……

お兄ちゃんが怒ったのは
 エッチな小説を
 書いたことなんだと
 思ったから……

ななんだよ！
 小説なら小説って
 早く言ってくれれば

だって……
 すごくエッチ
 だったでしょ……

友達玲菜に
 送るつもりだった
 あたしの携帯小説

基本
 ファクション
 だから

あ……

でも、ひとりで抱えて
 るのがつらくて

お兄ちゃんに聞
 いや僕は
 てつきり……

いやまあ
 確かにそれは
 そうだけど……
 ……でも……



なかったコトにしたい？

あたしは
それでも構わない……
どっちにしても
みんなには言えないでしょ



お尻を叩いた
お仕置きは
エッチな小説を
書いていた罰

でもその
後の
ことは……

そう
……だな……
その……

……ごめん……



謝らないで

なかったことに
なったんだから



お姉さま……

アネキ大丈夫？

平気平気



僕は……妹に
なんてことを
してしまったんだ
……



パタン

この家を守る
長男として僕は
冷静に事にあたらないと
いけなかったのに
反省しなくては……

もちろん愛莉に
してしまったことは
ちゃんと覚えているが……

愛莉の小説上の話を
真実と誤解して
すっかりアタマに血が
上ってしまったのか……

いけないいけない

……つていうか
途中からあんまり
記憶ないぞ……

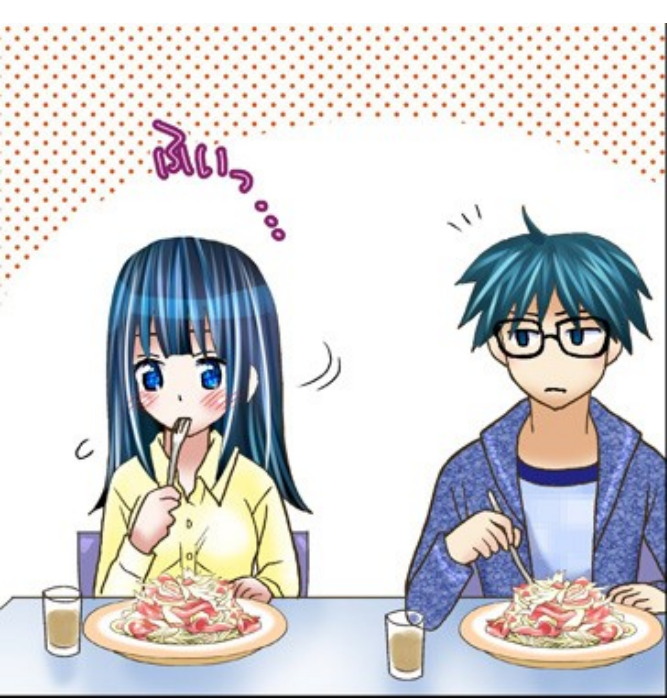


ま とにかく
遅くなって
すまなかったな
さあ 食べよう

えええ
……いただきます……

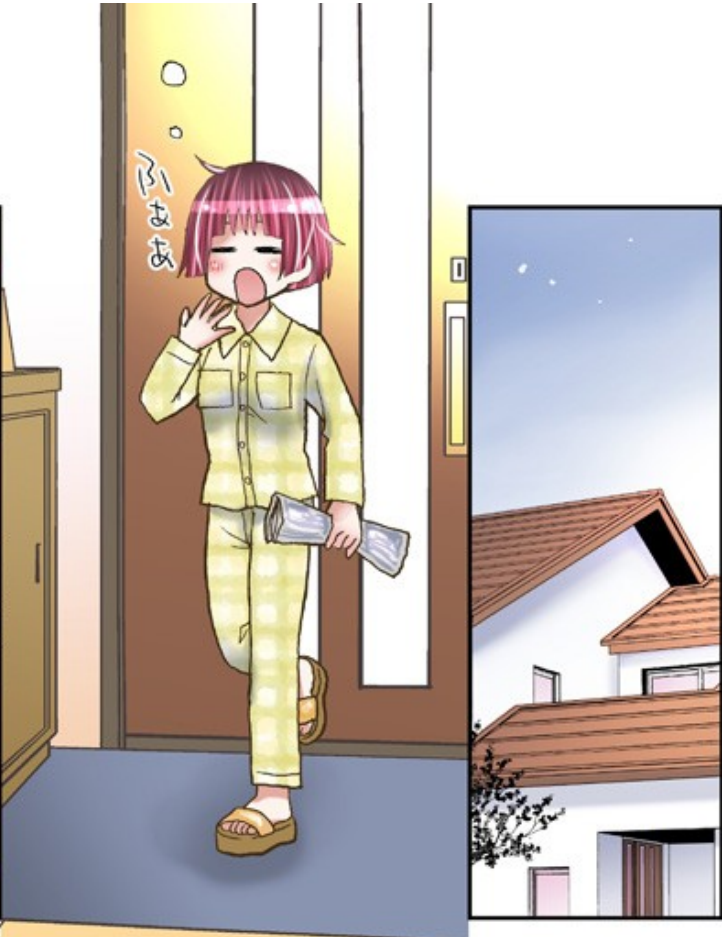
あたしアキの
オリジナルパスタの
中ぞコレが
いちばんスキ!

……



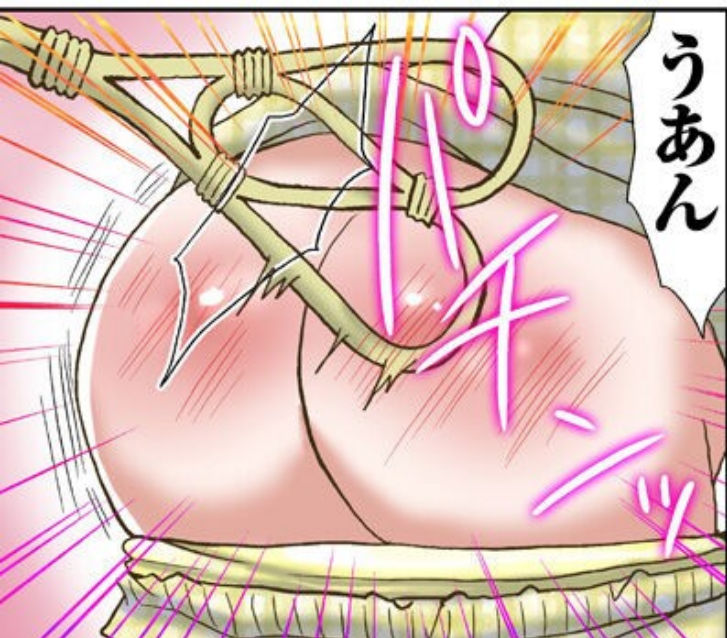














ごめんね麗
お兄さまのスマホを
盗んで玄関に
置いたのは私なの

嘘じゃないって!



だってだから
ホントだって!

アタシ
盗ったり
してないよお!

嘘をつくんじゃない!



朝イチで
新聞取るのを
日課にしてる麗なら
絶対それを手にすると
思ったのよ……



はあ

はあ

こんなところで
何してるの……
でも指が
止まらない……っ

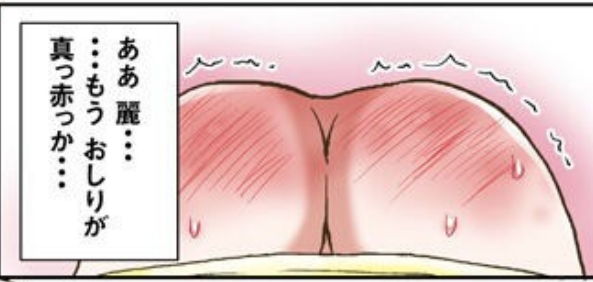
あ……うそ……
……私……
だめ……っ

もぞもぞ

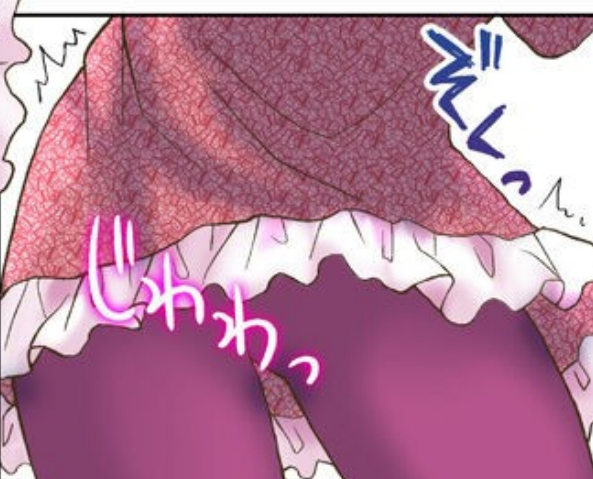
くちゅ
くちゅ



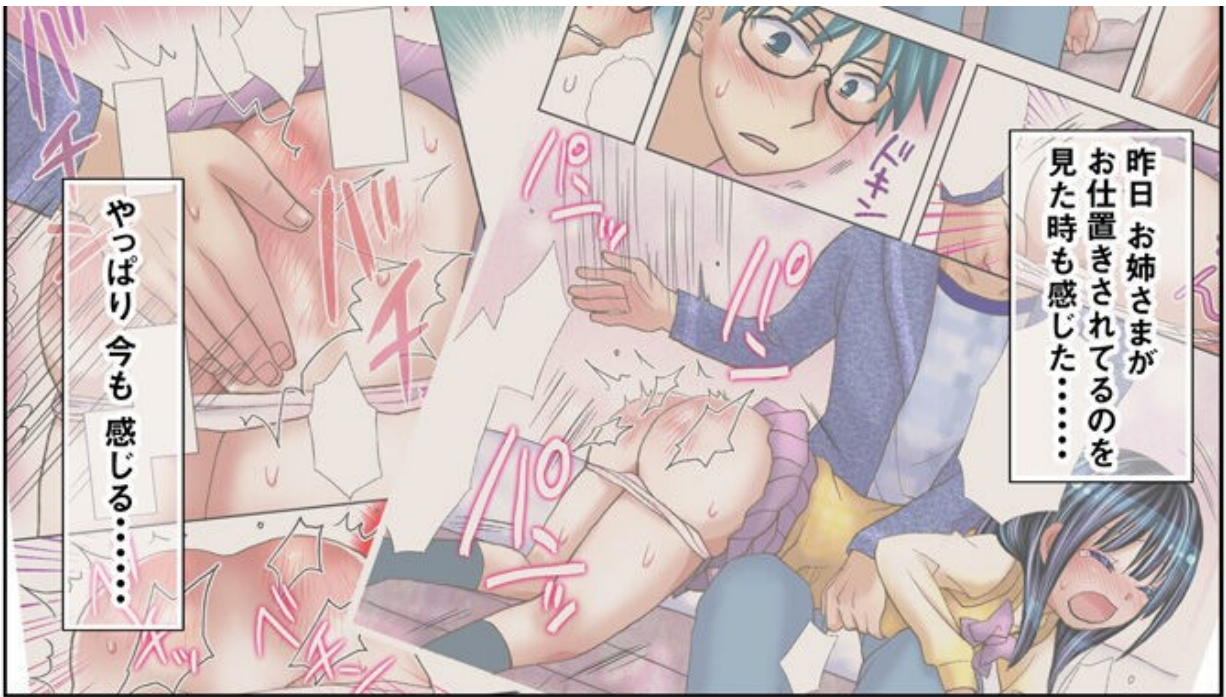
私どうしても
確かめたい
ことが
あったから



ああ麗……
……もうおしりが
真っ赤っか……



じわわっ



昨日お姉さまが
お仕置きされてるのを
見た時感じた……

やっぱり今も感じる……



わ私……
……もしかして
……



なんだろう
この気持ち



静かになった……

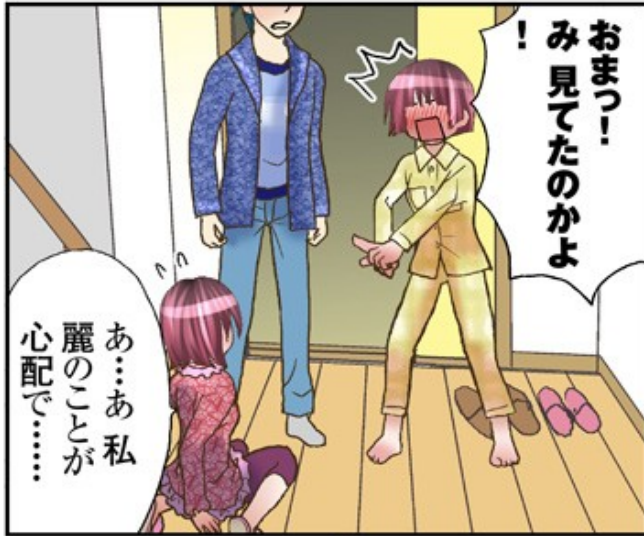


そう昨日
この後お兄さまは……
お姉さまと……





麗にも
するのかしら…？



おまつ！
み見てたのかよ

あ…あ私
麗のことが
心配で…



ガラッ

何してるんだ？
遥



ああつもしかして
遥じゃねーの？
玄関にスマホ
置いたの！アタシを
ハメたな？

美しい加減に
しなさい



ふんつどーせ
遥は品行方正で
アニキの
お気に入りだもんね

アタシの
言うことなんて
どーせ全部嘘！



もういいよ
学校行く！

はあ…やれやれ



心配させて
すまなかつたね
遥
さお前も早く
学校へ行く
支度を

……りました…



遥……
本当にそうなら
よく告白してくれたね

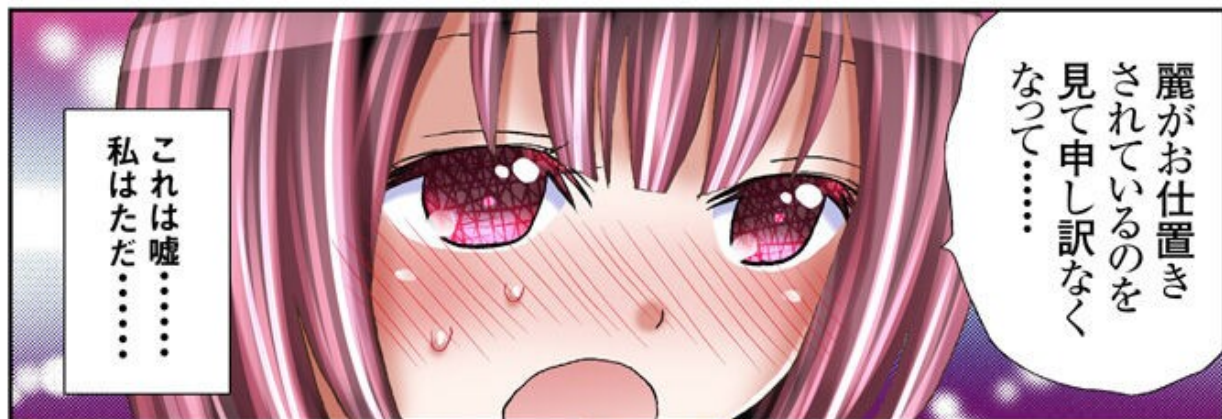


玄関に置いたのは……
麗の言っていた通り
麗に罪を
被せるつもりで……

お……お姉さまの
書いた小説に
興味があつて……
でもお姉さまのは
見れなかったの
でお兄さまのを……



……にわかには
信じがたいんだけど……
遥 本当に
そんなことしたのか？



これは嘘……
私はただ……

麗がお仕置き
されているのを
見て申し訳なく
なつて……



だ
だめっ……

……だめ
お兄さま！

お仕置きは
受けたこととして
今日のところは……

ばっ



いいよ遥
今回は許す

えっ？

いつも思慮深い
お前にも
魔が差すことが
あるんだな



……そうか……
……遥がそう……
望むなら……



私は……
悪いことを
しました

麗と同じように……
……うんそれ以上に
お仕置きして下さい……

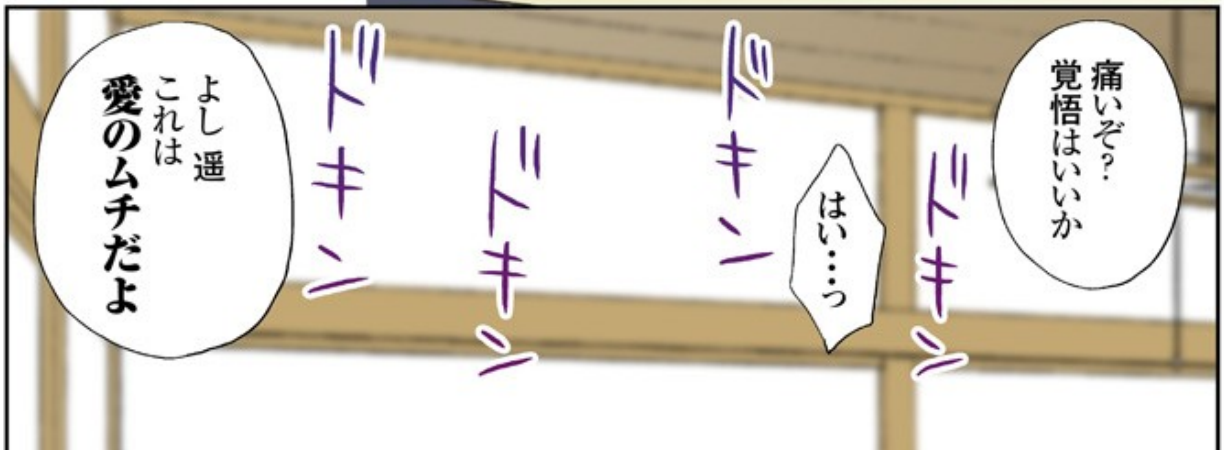
遥……!



僕が覚えている限り……
遥がおしり叩きの罰を
受けたことは
なかったんじゃないか
と思うが



はい……
初めてです



痛いぞ?
覚悟はいいか

はい……

よし遥
これは
愛のムチだよ

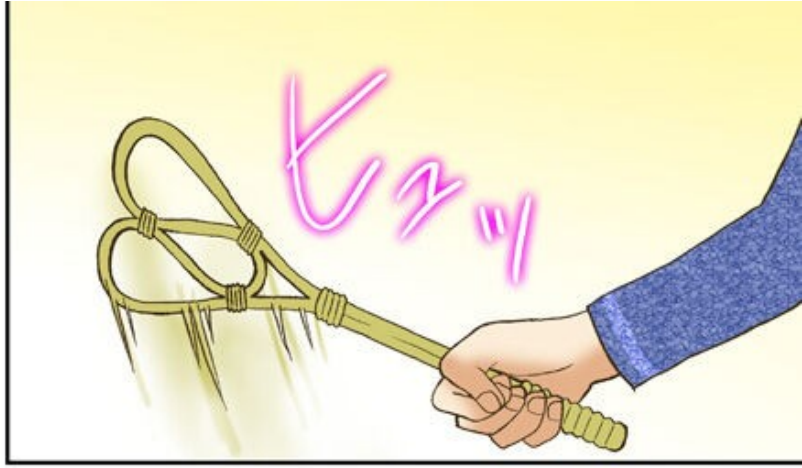


昔から...お姉さまや麗がおしりを叩かれてるところを覗き見ではドキドキしてた...

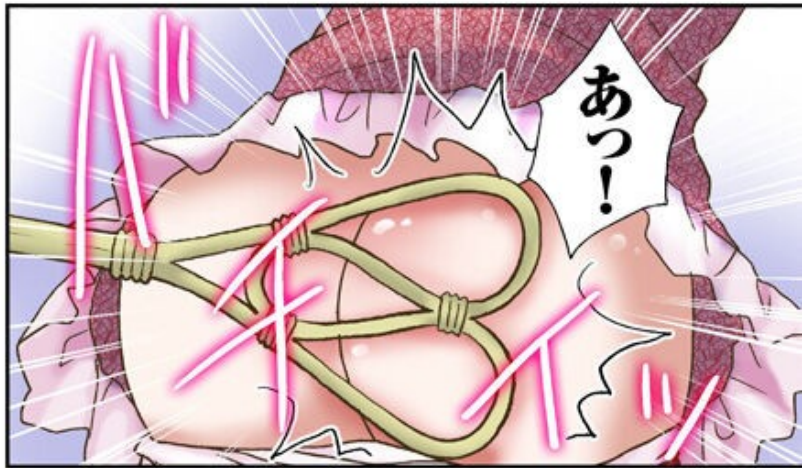
いつか私にもって密かに思ってたの.....

ぷる...

ぷる...



ビュッ



あつ!



ああっ!

お兄さまの愛のムチ...
...本当に容赦が
無いわ.....!!



なのに私興奮してる.....!!

へんたいだ...
...私はへんたいの
悪い子だ.....!!

あつ

あつ



こんなに痛いのに...!!

ひいっ



だめ何か
力が…はいらな…

あつ



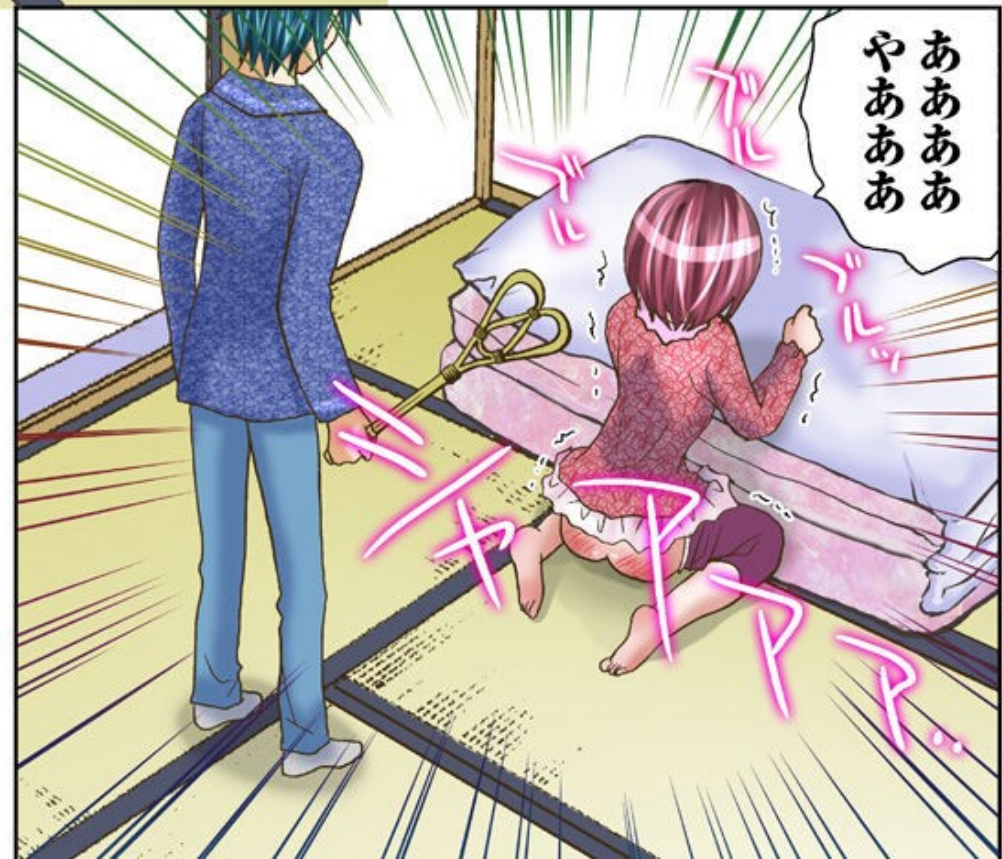
あつあつまだ
そんなに強く叩くの…?



もうおしりだけ
私のカラダじゃないみたい…



!



ああああ
やあああ



漏らした上に
絶頂したのか?
今

何だ
お前今の…
…イったのか?
ん?



……遥



ああ……
ごめ……なる……
私……



お兄さま
………

あれ……何
何かお兄さまが
おかしい……
……先程までとは
違う………



おいおい
ナカの方まで
ぐつちよぐちよ
じゃねーか

叩かれて
興奮したのか!
叩かれて
悦んだのか!
お前は!

あぁあ
あぁあ
あぁあ

あぁあ
あぁあ
あぁあ





挿れられて
...しまった...

...挿れられて
しまったわ
私...



あああ



やあ...
やああつ

昨日のお姉さまのこと
見たから
もしかしたらとは
思ってた

とうとう
正直ちよっぴり...
...期待すらしていたの



ももう
ヤメ...て...っ

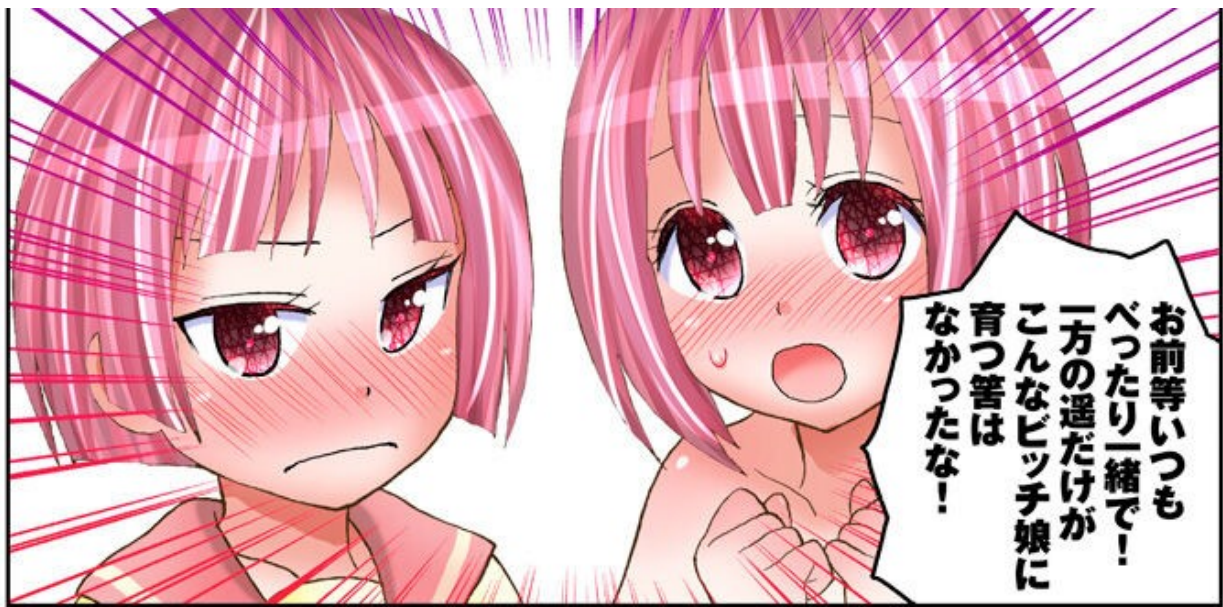


こんな怖い
お兄さま
知らない.....!



けど







処女マ○コの
くせに
トロトロだな



麗自分で
拵けてみる

そうだ
よし



.....
う



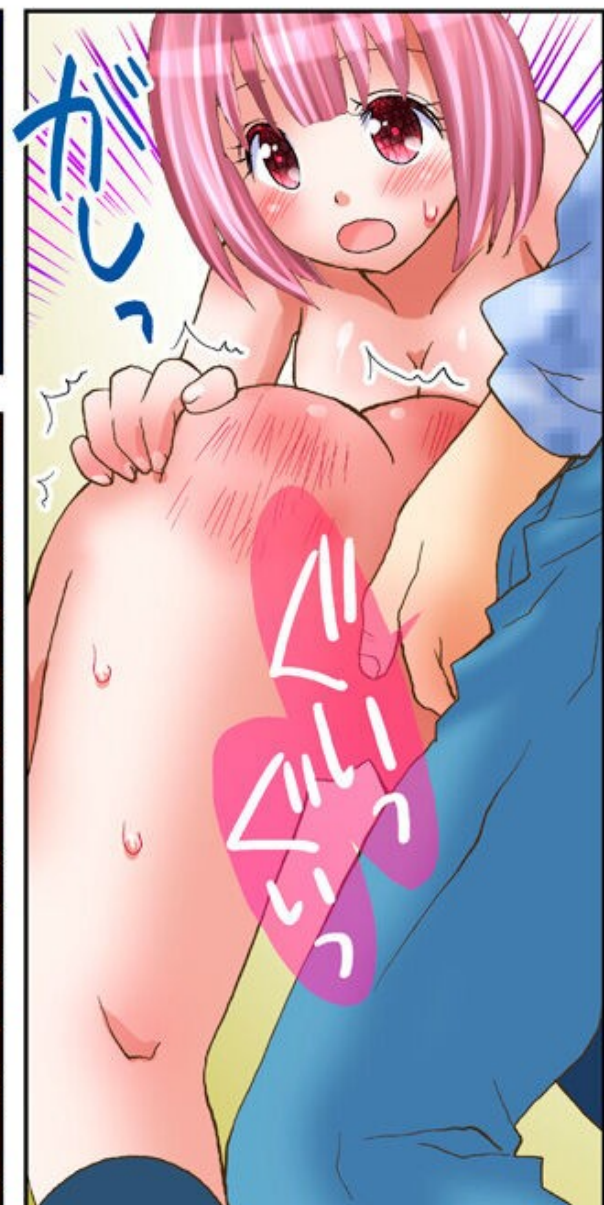
ん.....
あ.....



直接
ほぐしながら
挿入してやる



遥押さえてやれ





ああ…
うらら…



どうしてかな
麗のこと
すごく
可愛く見える…!



はるかか…?



よしおまえも
交互に可愛がって
やるからな



いいぞ
遥イイコだ



これも
お兄さまの
ひとつの姿なのね...

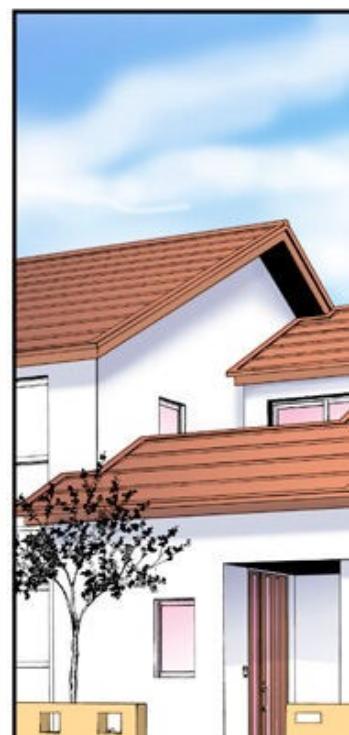
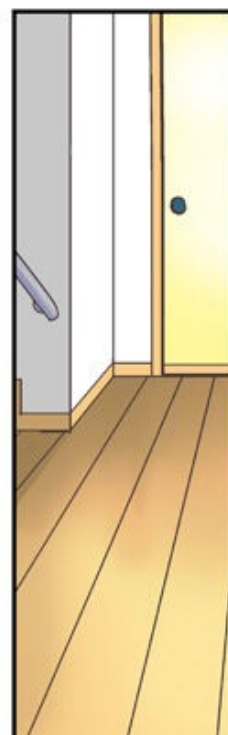
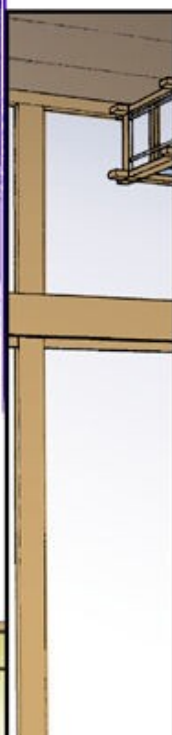


あぁあぁ...

いつものお兄さま
とは全然違う...
けど.....



お兄さま.....





妹達みんなを
こんな形で
汚してしまった

僕はこの家の
長男失格だ……



もはや
この家を
出て行く
しかない



僕は母さんの
代わりになんて
なれなかったよ
……



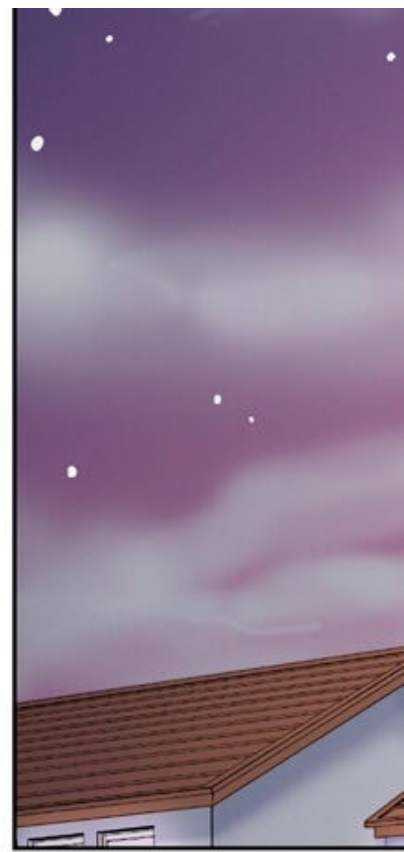
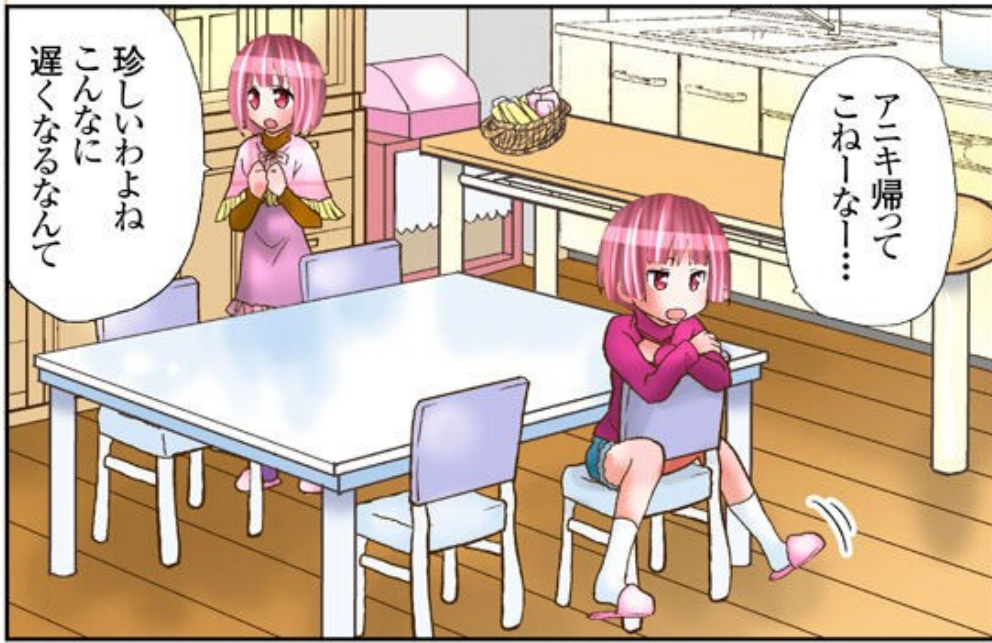
そして
母さん……

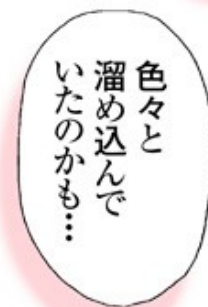
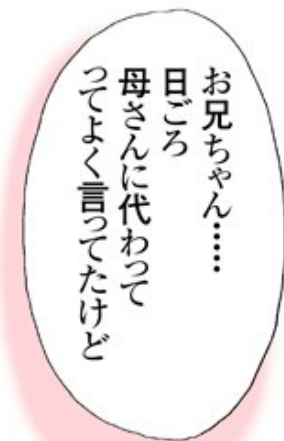
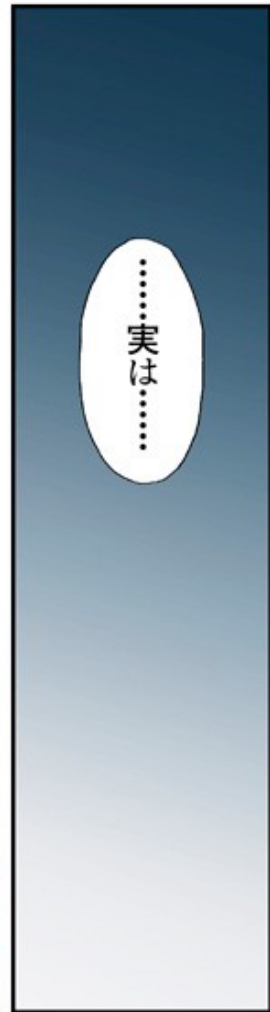


僕に全てを
任せてくれた
父さん
すまない



愛莉
麗遥
すまない







また
帰って来いって
メールかな

……みんな
あんなことしでかす
僕の事
本気で許さうって
思ってるのか？

……ありえないよ……

送信者: 愛莉
日時: 2012/11/xx 22:37
件名: こないだのつづき

お兄ちゃんはあたしの話を
ただ黙って聞いていた

あたしが話を終えて
お兄ちゃんを見上げる

?

件名: こないのつづき

え！
これって
愛莉の小説……？

まさかまた
友達宛のを僕に
誤爆したのか？!



お兄ちゃん……？

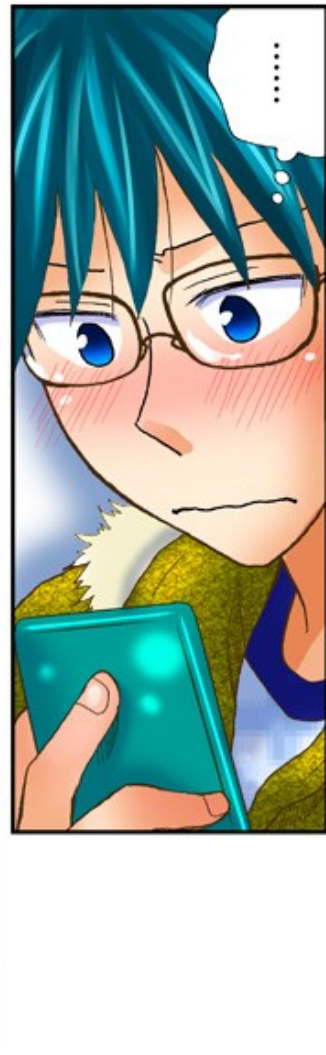
……僕はお前を
そんなふしだらな娘に
育てたつもりは
なかったんだが

お兄ちゃんはあたしの話を
ただ黙って聞いていた。

あたしが話を終えて
お兄ちゃんを見ると

微かに震えてるのが
わかった。

お兄ちゃんは怒っている
ようだった。





さあ
僕の膝の上に
横たわって
お尻を出さない!



お兄ちゃん
何するの……?

決まってるだろう!



僕は育て方を
間違っ
てしまったのかな

もう一度
昔みたいに
躰直さない
といけないようだね



小さい頃よくお仕置きで
お尻を叩かれた事があるのだけど

もう、あたしは、大人

おにいちゃんには、まだコドモに
見えるかも知れないけど
少なくとも、カラダはこんなに大きくなった。



え……
おおいおい
なんだ
この展開は……

どどーん



覚悟はしていたけれど

この体勢になるのは
とても恥ずかしかった。



それなのに、昔と同じように、
なんて、そんな無理！



いっそ逃げ出そうかと思ったけれど

お兄ちゃんの真剣な目に気圧されて



あたしはあきらめて
膝の上に横たわる事にした。



そして、お兄ちゃんの腕に
がちり押さえられると

いよいよ何の抵抗もできなくなり

あたしのカラダはお兄ちゃんに
完全に任される事になった



お兄ちゃんは容赦なく
あたしのスカートを持ち上げ
下着を下ろした





あたしのお尻が
お兄ちゃん目に映ったのを感じて
かあっと全身が熱くなった。



やっぱり、恥ずかしい！

お願い、もう許して、あたしを放して！



そして、二度、三度と、
振り下ろされるお兄ちゃんの手。



考える間もなく、
お兄ちゃんの平手が
あたしのお尻を打った。



お尻だけに留まらず
あたしの全身を駆け巡っていた。



打たれた痛みは、すぐに熱へと変わり

かあぁあぁ



その熱も
どんどん加えられるモノだから

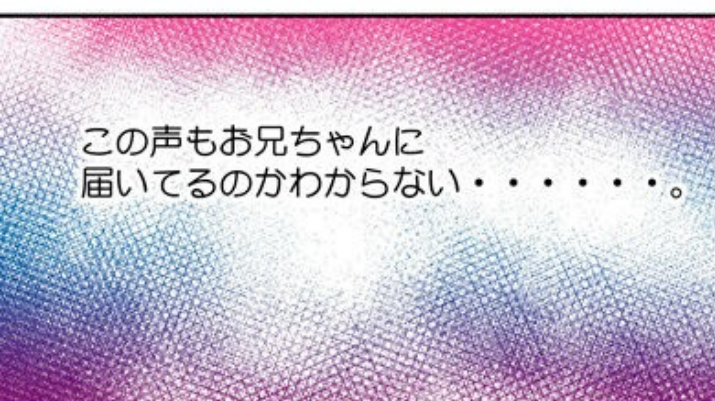


いめんない

ゆるして



四度、五度・・・
もう何度かわからない。



この声もお兄ちゃんに
届いてるのかわからない・・・



恥ずかしさと痛みと熱で
アタマの中も沸騰したみたいになって

もう何も考えられなくなってきた頃.....



ふいに、叩いた後に
やさしくお尻をなでる手の動きに気付いた。



お兄ちゃんは戸惑って
いるようだった。

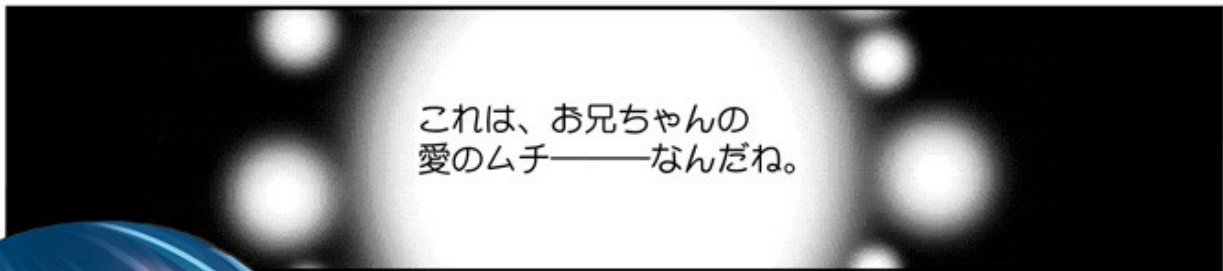




そうだね・・・お兄ちゃんだって

叩きたくて叩いてるんじゃないんだものね。

全てはあたしのために
思ってしてくれていること。



これは、お兄ちゃんの
愛のムチ——なんだね。



カラダがお兄ちゃんの全てを
受け入れたくなった。

もっと強く叩くなら、それでもいい。

他にしたい事があるなら
.....それでもいい。



そんなふうに思った
瞬間、
全身の力が抜けた。



そして、その晩。



お兄ちゃんのする何もかもを
今のあたしなら
受け入れられると、思った。



あたしとお兄ちゃんは
兄妹の一線を越えることになった。

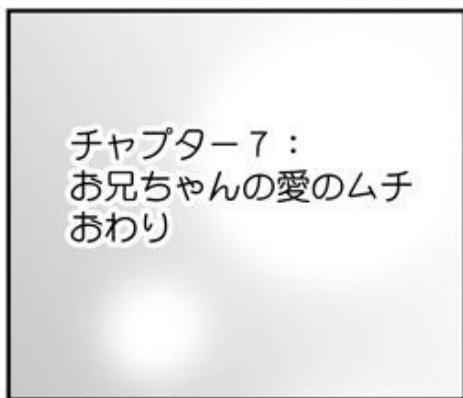


今までは、友達の経験談を
元にしてHな小説書いていたけど

初めて、自分の経験を元にして
書いてみちゃった！

フフ。

あたし、こんなコだけど、
お兄ちゃん
お仕置きしなくていいの？



チャプター7：
お兄ちゃんの愛のムチ
おわり



P.S.
言っとくけど、誤爆じゃないよ。



愛莉……



……確かに
お仕置きが
必要かもなあ……



ちなみに麗と遥にも
小説手伝ってもらいました!

……お前なあ……
愛莉……
おいおい……



うーん……



きつともうすぐ
帰ってくるよ
思うよ

読んでると
いいわね



ほらね!



アニキ
メール読んだ
かな

いもうとに愛のムチ

著者 ゆーきい

発行 にゃん★こみ

本書の無断転載・複製等は著作権法上禁止されております。